



小網代通信

発行：小網代ヨットクラブ
 〒238-0225
 神奈川県三浦市三崎町小網代
 1385-18
 編集：広報委員会
 編集長：里吉美恵子
 連絡先：office@koaziroyc.jp

Koaziroyc Yacht Club

2023年6月号 VOL-300

2023.6.10 発行

今月の内容

今月の内容		ページ
連絡事項	(編集委員)	1
ナジャ 55年これより始まる	(ナジャ 白崎 謙太郎)	2
小網代通信 300号に寄せて	(KELONIA 大谷 正彦)	3

今後のイベント予定

6月 KFR	: 6月18日(日) Eコース予定(予告信号 10:25)
ハーバー清掃	: 6月18日(日) 8時30分から 全艇参加
総務委員会	: 6月19日(月) 19:00~ (対面とzoomとのハイブリット会議 予定)

連絡事項

1. クラブハウス修繕工事

工事期間中、特段の問題は指摘されず無事完了いたしました。今後もクラブハウスが気持ちよく過ごせる場所として、これからも大切に利用していきたいと思っております。

2. 5月KFR(初島レース)

今年の初島レースは、5月21日(日) 恒例の零時スタートで行われました。
 参加艇は、7艇(小網代5艇、外来艇2艇)でした。午前中には全艇がフィニッシュしました。
 詳しくは、ホームページ「RACEレース」で結果を参照ください。

3. 6月クルージングイベント(千葉県 保田)

天候の悪化が予想され、中止となりました。

4. 6月ハーバー清掃時にクラブハウス2階の清掃を行います(お手伝いできる方募集)

6月KFR開催日の6月18日(日) 8時30分からハーバー清掃を行います。(ハーバー整備・管理委員会) 各艇1名以上の参加をお願いいたします。
 当日はまたクラブハウス2階のキッチンやバーベキューセットなどの清掃及び点検を行いますので、ご協力をお願いいたします。これ以降、キッチン・バーベキュー等の利用が許可されます。

※ただし、ゴミ出しは、ビン、缶、ペットボトルのみしか出すことができません。

5. 小網代通信 300号を迎えました。

初代編集長、白崎謙太郎氏より寄稿いただきました。(2ページ目に掲載)

ナジャ 55年これより始まる

ナジャ 白崎 謙太郎

1965年ころ、「さがみⅡ」飯島元治船主・渡辺修治設計・横須賀・東造船建造が式根島にクルージングに行き、素晴らしい航海記（妹尾末男筆）が「舵」誌に載った。翌年26歳の私は23フィート「ナジャⅡ」を進水させた。式根島クルージングは大きな目標だった。島の波打ち際にある地釜温泉と足付温泉に浸かるのも楽しみだったのだ。1967年夏、大谷正彦さんを誘って式根行きを決行し、他一名も同乗することになった。前夜に泊地を出て、大島の西岸を南下したが、黒潮の影響を考慮し、やや西側に進路をとった。視界はあまり良くなかった。当時多くの艇が持っていた、光電製作所のディレクション・ファインダー（48,000円）を私は買えなかったため、代わりに入手した長波が入るラジオを買った。これは内部に長波まで入るフェライトコアの受信アンテナがあり、それをラジオごとくるくる回すと電波が弱まる方向が解る。私はそのラジオの上にサウラのハンドコンパスを取り付けるように自作加工した。前方に大きな新島が見え、無人島の鵜渡根が見え、さらに前方に背の低い小さな島、式根が見えた時の嬉しかったこと。中の浦という入江に入ったら、大きな立派なクルーザーがいた。ヨット界の大先輩「シラ」にあだ名がついていた竹下正彦さんだ。竹下さんは原宿の竹下通りに名を残した竹下海軍大将の御子息で、その時の「潮風」（35フィート、当時としては巨船）の船主であった。停泊していた「潮風」の竹下さんが手招きしてくださったので、サイドバイさせていただいた。竹下さんはクルーに言って艇内の冷蔵庫から冷えたビールを持ってこさせた。缶ビールが無い時代である。チュツという音がして、栓が開けられ、コップに注がれた。その時の味は忘れたが、シラ大先輩の優しい笑顔は忘れない。23フィートの小さなクルーザーJOGでよく来たねえ。と言っておられたような気がした。わが艇「ナジャⅡ」は今でいえば23フィートの小舟であるが、ヤママーのNTS70Rという3馬力のディーゼルエンジンを載せていたので、どこにでも不安なく機走5ノット強で航海できた。この艇は横浜町木場の岡本造船所で熊沢時寛さんの設計・建造だった。FRP艇が無い時代だ。使った木材はフレームの櫂は全て不良材の白たではなく赤身だけを、外板の台湾檜も良材だけを選んで、建造前当時出始めのマジックインキで「ナジャ用」と書いてくださった。進水後小網代への回航には当時高校生だった渡辺康夫さんが同乗してくださった。どれほど心強かったことか？康夫さんには今でも見捨てられずにお付き合いさせていただいている。当時私は写真の「DP屋」で毎日売り上げを金融機関の集配係に手渡し、月一度の満期の日に封筒に入れた金を、封を切らずにそのまま「岡本造船」の事務所に持参した。年齢82歳、自分の人生を振り返ると最も希望に燃えていた時代である。その後もヨット関係の良い友人たちに恵まれてきた。

各位に感謝である。この時の写真が残っている、大谷さんも私も20代、若々しい。



小網代通信300号に寄せて

KELONIA 大谷 正彦

「小網代通信」は今月号で300号を迎えました。誠におめでとうございます。

1998年7月創刊から毎月発行で25年続いたことになる。編集関係者、寄稿いただいた方々、歴代の会長、事務局、温かい目で見守っていただいた会員各位に感謝申し上げます。

特に編集長は、創始者の白崎編集長が2年間務められ、その後2000年3月から里吉編集長が現在まで23年間継続されています。これまで途切れなく続いたのは両編集長のご努力のおかげです。

「小網代通信」の創刊の経緯については「小網代ヨット史」に詳しい、ここでは省略します。

興味ある方は「小網代ヨット史」P90~91のご一読を！



「小網代通信」第1号(1998年7月)、第100号(2006年10月)、第200号(2015年2月)

【第1号には波勝メンバーが、「スーパーマドンナ小網代に現る！現る！」と題して女優「吉永小百合」さんが当時のクラブハウス前庭でバーベキューを楽しんだ。という内容の寄稿文が載せられている。】

【編集子より】

小網代通信の一般公開は2年間分ですが、KYCホームページの会員専用ページ「小網代通信バックナンバー」タブでは、バックナンバーの第1号からご覧いただけます。

「小網代ヨット史」は2016年発行。1958年小網代フリート時代からの60年にわたるヨット史です。

残部がKYCにあり、物品販売されています(2,000円/冊)。

ご希望者の方は、KYC頒布品担当 hanpuhin@koaziroyc.jp にお申し込みください。